日刊 動労千葉
80.9.5
No. 526
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二二五八～九・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

# 高まる軍靴の足音

今や、アジア随一の近代装備をほこるに至った自衛隊

## 反動鈴木体制の軍事大国化攻撃と対決し、九・一五三里塚へ！

ダブル選挙による「安定多数」を背景にした、自民党・鈴木新体制は成立後二ヶ月をへずしてすさまじい大反動攻撃をつよめている。　自民党・鈴木新体制のこの大反動攻撃は、総じていえば日本社会全般にわたる戦後的あり方を支配者の側から根底的に転換せんとするものである。この最大の基軸が軍事大国化とアジア侵略をめざした攻撃である。われわれは、こうした日々たかまる軍靴の足音を押しとどめるべく、労働者ー労働組合の真価を問うものとして三里塚＝反合闘争を基軸に今秋闘争を闘おう。

### 激化する鈴木新体制による反動攻勢

鈴木内閣はロッキード被告人・田中角栄に直結した〝直角内閣〟として超反動的・強権的・腐敗内閣である。

成立以来の反動攻勢は、「有事」にむかっての戦争遂行機能の強化を狙った「総合安全保障会議構想」をはじめに、自衛隊の海外派兵の野望をあからさまに提起した「外務省総合安保レポート」、「防衛予算の別枠増額」「中期業務見積り」のくりあげ、八・一五からの陸上自衛隊の「あかつき大演習」、閣僚大量靖国参拝と靖国法案の策動、スクランブル戦闘機へのミサイル常時搭載、海上自衛隊の常時魚雷装備等々。しかも小選挙区制策動と憲法改悪発言、国防教育発言、全斗煥支持と金大中氏軍法会議の是認、春闘仲裁裁定の議決案件化、物品税・増税計画等々、と政治・経済・軍事面のすべてにわたったものである。

まさしくこの激化する大反動攻勢こそが、戦後日本帝国主義の支配のあり方を軍事大国化・アジア侵略にむけて超反動的に転換しようとする攻撃にほかならない。

### 軍事大国化攻撃の環「四空整」

反動鈴木内閣の最大の攻撃としてあるのが、「八月二五日に発表された「第四次空港整備五ヶ年計画」である。「四空整」は、総投資規模三兆三百三十億円をもって、三里塚二期工事・関西新空港建設などの攻撃である。今日、日帝にとって航空宇宙産業の未確立こそは、軍事大国化の重大きわまりない隘路となっている。この隘路を打開すべく、三里塚二期工事と関西新空港建設＝巨大軍事空港建設をもって航空宇宙産業部門のたちおくれを一挙的にとりもどしをはかろうとするものである。

反動鈴木内閣は、この軍事大国化攻撃の環＝「四空整」をもって、関西空港建設と三里塚闘争の解体・二期工事完成にむかって攻撃を開始してきた。

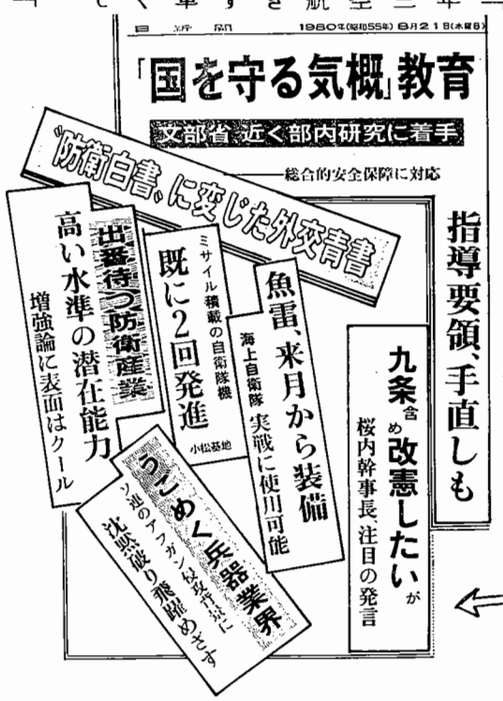
そのあらわれが、ジェット燃料輸送期限延長＝パイプライン完成への攻撃である。さらに三里塚一期既成事実化＝二期工事にむけての攻撃は、今日、二期工事敷地内拠点・木の根に対する「京成電鉄芝山延伸計画」・岩山へのアプローチエリアの建設・航空博物館建設のためのボーリングの開始・〝空港周辺には人は住むな〟という周辺農民のおいだしをねらった騒特法とそれにもとずく土地利用計画である。

一方、関西新空港建設に対しても、地元住民の反対の声を無視して、九月一日、航空審において最終答申を強行した。

### 九・一五　三里塚闘争の爆発を

反対同盟は、騒特法粉砕・二期工事阻止へと、三波にわたる芝山町周辺の情宣活動、全戸署名活動の闘いを取り組み、九・一五現地集会成功へむけて奮闘している。

関西住民は、九・一答申に対し運輸省・大阪府への大衆的抗議闘争に決起した。この闘いと固く連帯し、反動鈴木内閣の軍事大国化と対決し、九・一五闘争を突破口に秋期反戦闘争の爆発で反動攻勢をうちくだこう。〈最近の新聞から〉




全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！